

平成二十年度 冬季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「冬」

期間 平成二十年十一月一日～平成二十一年一月末

投句数 一、五六四句

特選三句

天

初春の日差しと、のふ源氏池

神奈川県横須賀市 山口義一

地

その昔伽藍競ひし枯野かな

神奈川県鎌倉市 土山忠滋

人

瑞泉寺千両の実の赤きこと

静岡県富士市 伊藤正美

入選句

一般の部

大仏をすっぱり包む時雨かな

神奈川県横浜市青葉区

寺橋正光

鎌倉の鳶高々と冬日和

埼玉県狭山市

古谷彰宏

七五三母の匂いを想いだす

神奈川県横須賀市

高橋幸子

小さき手で柏手一つ七五三

神奈川県横浜市南区

中村重次郎

竹寺や抹茶一服冬日向

神奈川県藤沢市

吉田茂樹

大仏の背の北窓は塞がざる

神奈川県横浜市旭区

柳沢栄蔵

知らぬ顔の羅漢も居りて冬うらら

東京都練馬区

勝田剛史

輪蔵を回し感謝の年の暮

神奈川県横浜市緑区

伊藤とく

見えて居て遠き鳥居や初詣

神奈川県横浜市青葉区

山下省三

寒鯉も水に浮く葉も動かざり

東京都町田市

竹内弘

み佛は半眼にそる冬紅葉

神奈川県横浜市栄区

葭谷健一

江ノ電を途中下車する小春かな

東京都八王子市

小池拓夫

初詣傘寿も大石段登り

東京都杉並区

榊原惇子

このあたり谷戸も奥なり藪柑子

神奈川県横浜市泉区

細田かほる

もう少し生きる心算の七日粥

神奈川県逗子市

橘田春岳

裸木に命の光あふれけり

埼玉県朝霞市

進 篤子

先ず虚子の墓に立ち寄る初詣

神奈川県川崎市中原区

大畑貞子

初風の日矢射す海の孤舟かな

神奈川県横浜市港南区

雑賀義久

矢合せの堂縁駆ける空っ風

東京都杉並区

稲垣克巳

人力車人待ち顔の寒さかな

神奈川県鎌倉市

山内愛子

(順不同)

入選句

子供の部

鎌倉でおちばのじゅうたんふみしめる

埼玉県さいたま市南区

辻本麻奈佳

小春日にお寺めぐりはたのしいな

神奈川県鎌倉市

布川華子

じよやの鐘ひびきがいいなこうとく院

埼玉県さいたま市

鈴木将大

大仏にマフラーまいてあげたいな

群馬県太田市

小杉優介

初富士や雲をつきぬけそびえ立つ

大阪府守口市

岩淵 稜

よるのほしひかりかがやくふゆのそら

東京都中央区

高田 漣

さむい冬大ぶつさまもおだいじに

神奈川県横浜市金沢区

川原田美希

冬紅葉雨に降られる仏たち

東京都足立区

前田 樹

本覚寺おじぞうさんも春を待つ

神奈川県鎌倉市

安部 京

冬の木々なぜか心があったまる

東京都新宿区

鈴木 大

(順不同)